

4. 一江戸東京・歴史文化資源の情報 & 緩やかに繋ぐ“プラットフォーム”

これまで、歴史的建造物をハードとすれば文化芸術はソフトと位置付けられるでしょう。アンケートの回答に示されたように、祭りや神社仏閣の年中行事にはじまり、歌舞伎や淨瑠璃、能楽やお神楽、俳句や書道に武道、多くの伝統芸能も開催されています。東京の「文化財」は日本一多いといわれ、「伝統工芸」も日本有数の都市となっています。染色、織物・きもの、江戸切子、木目込み人形、羽子板、手書き提灯、江戸指物などを担う人々や主体の動きもあり、それぞれの多様なストーリーは、おそらく活況を呈しているもの、衰退傾向にあるものとが混在がしているのが現状と云えるでしょう。

国や都、各区、そして様々な民間・市民それぞれのレベルでの歴史文化資源の発掘や保存、活用の現状の取組をゆるやかにつないだり、或いは、支援したりすることで結果として、東京全体の歴史文化資源を活かした観光まちづくりの進展に寄与することができるかと考えます。

世界遺産登録を目指す現在においては、改めて、多様な文化財や歴史文化資源を時間、空間的に一元的に整理していく必要があると考えます。

このように各地域や各主体が主体的に、誇りと愛着もてる持続可能な観光まちづくりを推進していく取組を前提として、当財団は多様な主体の関与を求めていきたいと考えます。

参考

町人文化…浮世絵、俳諧、川柳等の町人文化

伝統芸能…歌舞伎、人形淨瑠璃、能・狂言、文楽等の「伝統芸能」

祭り…神田祭、山王祭、深川祭等の「祭り」

伝統工芸…江戸切子、江戸指物等の「伝統工芸」

民俗工芸…神具、祭具、お神輿等の「民俗工芸」

民俗芸能…田楽、神楽、獅子舞、木やり等の「民俗芸能」

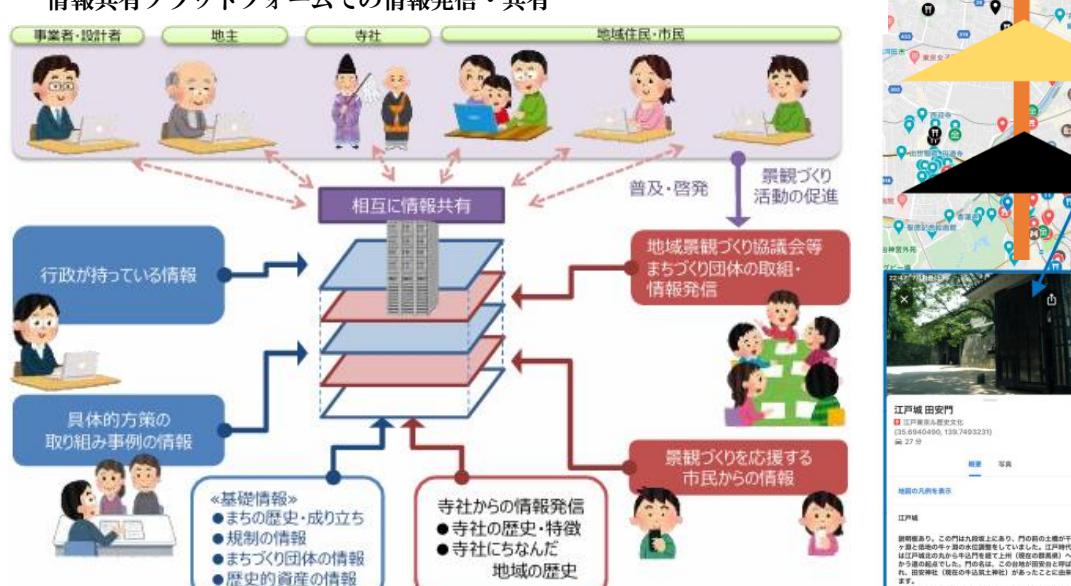
思想…江戸時代の歴史、神道、儒学、仏教等の「思想」

生活文化…武士（家）、町人、農民、職人、神社仏閣等の「生活文化」

その他地域で発掘される歴史文化資源

WebGIS型の江戸東京歴史文化資源のイメージ

情報共有プラットフォームでの情報発信・共有



3ページ（次ページ4pへ）

江戸城・城下町ルネッサンス
2025年12月20日
令和7年
会報誌第21号

2025「世界遺産を目指す江戸城再生」アンケート
調査報告&これから
会員・市民・有識者・官民関係者100人に聞きました

前人未踏・この壮大な夢を共有しませんか？

会員並びに市民、官民の関係者・関係機関のみなさま

日頃、ご支援を戴き誠に有難く篤く御礼申し上げます。

昨年、2024年、東京都は、中長期計画において、江戸城跡の世界遺産登録を目指すことを計画化し、一方、有形無形の文化財活用のため文化財保護法「大綱」を策定しつつあります。既に、有識者会議も開催され、漸く、その一步を確実に踏み出しました。世界遺産を目指すことは、人類の宝として世界の人々から尊敬され品格ある持続可能な都市再生を目指すことにはかなりません。そのためにも、各地域や各主体が主体的に、誇りと愛着もてる持続可能な観光まちづくりを推進する取組が求められています。しかしながら、未だ、ほんの緒に就いたばかりであり、今が、極めて大事な時である、と存じます。

市民運動も、これを機会に一市民の視点や参加一市民にしかできない或いは市民に相応しい参加一が肝要となる新たなステージに入ったと考えます。

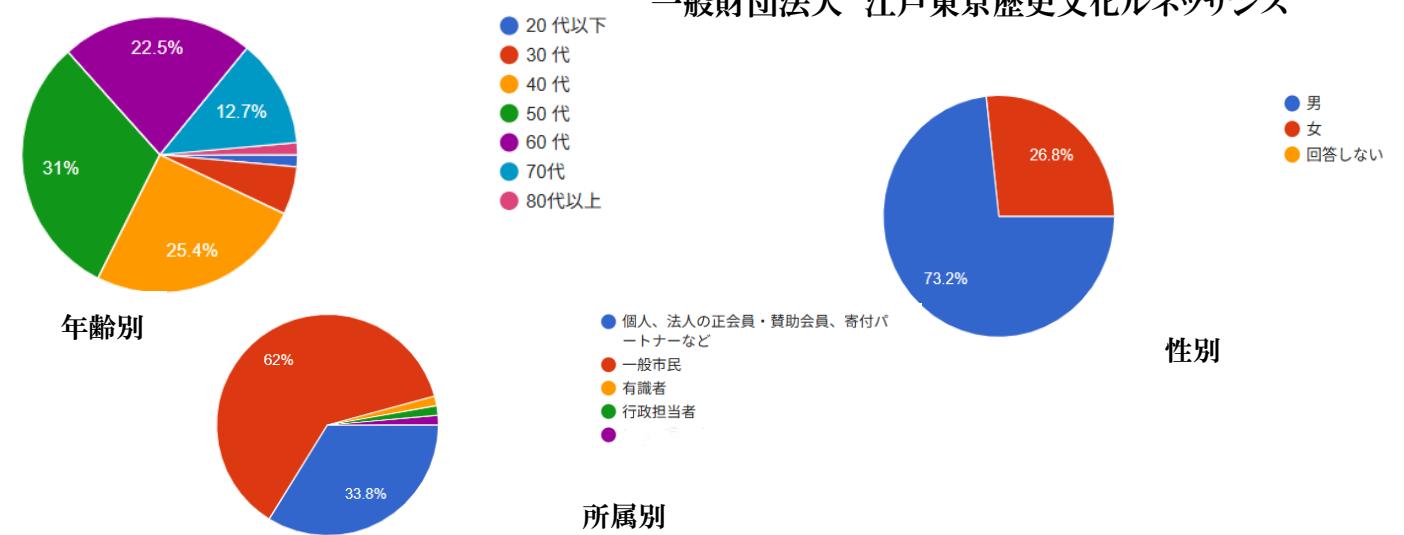
「世界遺産を目指す江戸城再生」を標榜する当財団は、これからも、「前人未踏の壮大な夢の共有」を求めて、多様な官民の主体や有識者・個人の関与を求めていきたいと考えます。

そのような環境変化を踏まえて、改めて、会員並びに市民、有識者、官民の関係者・関係機関のみなさまの声を一アンケート調査、座談会会議、投稿等一により、お伺いし、今後の運動に活かして参りたいと存じます。

今後共、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

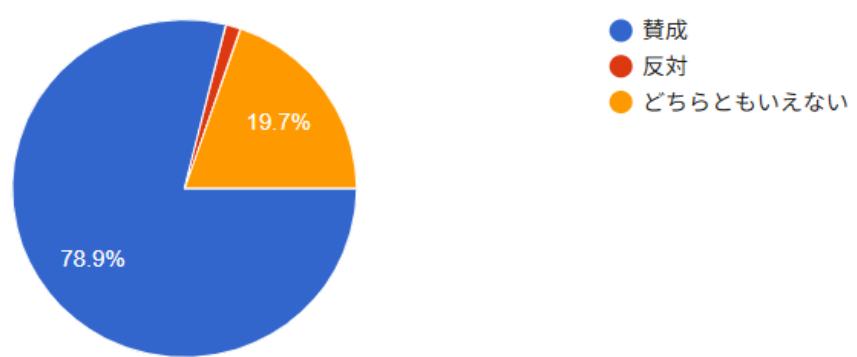
2025年(令和7年) 12月20日

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス



1. 一世遺産登録を目指すことについて、該当を選択して下さい

—世界遺産登録は、市民の応援・協力が必要です—



*青字は皆さまから出されたご意見

江戸城再生は世界遺産として観光立国日本の江戸東京の目玉として必要。

江戸城再生」が東京の品格を高め、未来世代へ誇れる文化的遺産となることを願い復元と保全の両輪で取り組むことで、市民参加型の運動として広がっていくことを期待する。

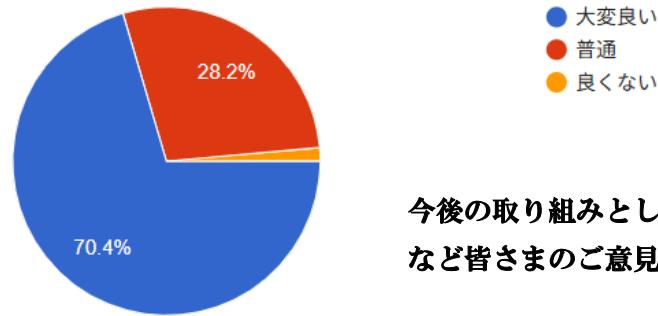
当財団は、2017年以來、一世界的評価に資する江戸城全体整備構想の策定を目指し—2018年以降は、世界遺産を目指す江戸城再生—を標榜し現在に至っております。江戸城再生の意義は、世界遺産登録に向けて調査研究委員会の学術研究を元に明らかなると考えられます。

江戸城跡は日本一壮大で美しく、城門や石垣、豊な水を湛えた外堀や内堀葉、昔の姿を今に残し失われた天守や本丸御殿の痕跡は往時の姿を思い起される。このように雄大な景観に包まれた特別史跡江戸城跡は充分に世界遺産に匹敵すると云われて久しい。(2020「今日的意義の検証」より)

江戸の地形を活かした豊かな自然環境や現存する歴史的建造物群もさることながら、伝統に培われた歌舞伎、淨瑠璃、能楽やお神楽等、の伝統や民俗の芸能等、同時に、江戸染色、織物、江戸切子、江戸指物等の伝統工芸、禪と茶道や武道等が背景にある日本文化等、仏教や儒教が背景にある生活や思想、即ち、有形無形の文化財—ハードとソフトの両面を合わせ持つ江戸文化は、世界に類のない唯一無二の存在であり、人類の宝として相応しいと考えられます。

2. 当財団のキャッチフレーズである近未来の「世界遺産を目指す江戸城再生」について

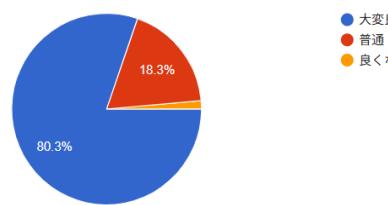
のご感想をお聞きします。「2020・今日的意義の検証」をベースに策定しています。



今後の取り組みとして、「2020年今日的意義の検証」は、市民、有識者など皆さまのご意見を踏まえて適宜、検証を進めます。

3. 調査・研究及び普及・啓発、提言の活動についてのご感想をお聞きします

—今後もより多くの一般市民、官民の関係機関に対し、さらなる普及・啓発、提言活動を適宜、検証しつつ推進します—



*江戸城に関する取り組み自体が知られるようになると、新たな協力者が増えると思う。

財団の一貫して通しきた本物志向の取組に敬意を表します。

考え方も進め方も本物志向の支持者が増えると思います。

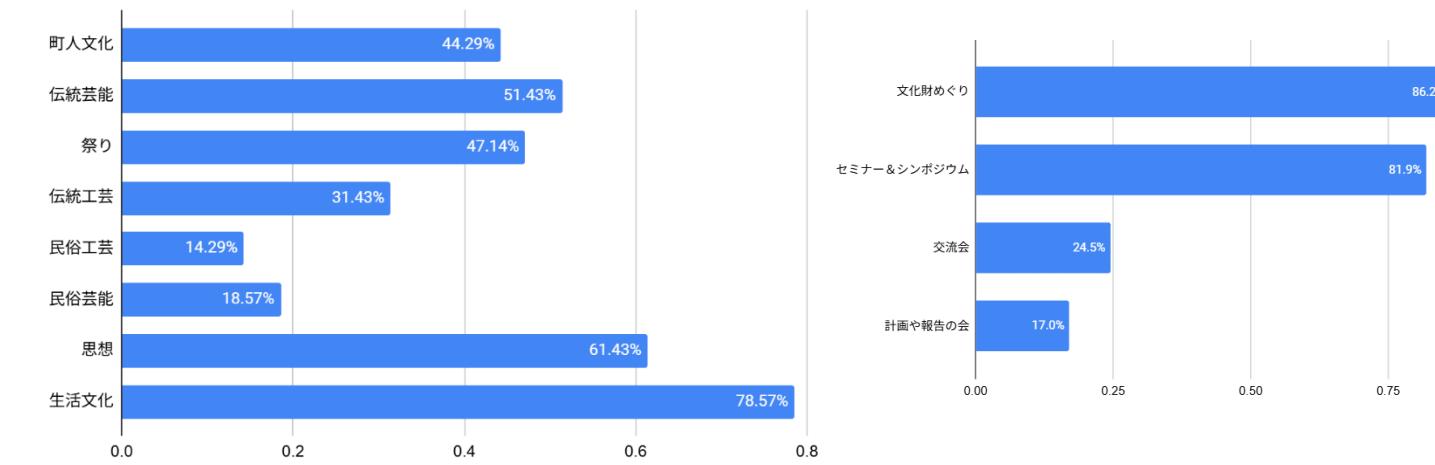
前人未踏の分野であった「世界遺産を目指す江戸城再生のテーマ」取り上げた運動の考え方及び進め方—一連の普及活動から提言活動に至る評価は、「大変良い」が8割を超えてます。この間、取組の不十分さもありながらも、2004年市民運動を創立以降、その王道を地道に継続してきた故の一定の評価が得られたと考えられます。

これまで、旧江戸城跡の歴史的建造物及び歴史や文化についての調査・研究を進めその成果はホームページや会報誌を通して広く社会一般に公開すると共に東京都、千代田区等江戸城関連8区をはじめ、文化庁関連行政への提言活動を進めて参りました。主な提言活動は—2021年、「江戸東京歴史文化回廊調査報告書」今日的意義の検証、近未来の世界遺産を目指す「VISION 2032」等—

この間の活動推進にあたり、東京都及び8区(千代田・文京・中央・港・墨田・新宿・台東・江東の一部)文化庁等をはじめとする行政や官民の関係機関のご意見やアドバイスはもとより、後援、共催に至るまでの協力等、多くの関係者のご尽力があっての提言活動の成果であると存じます。

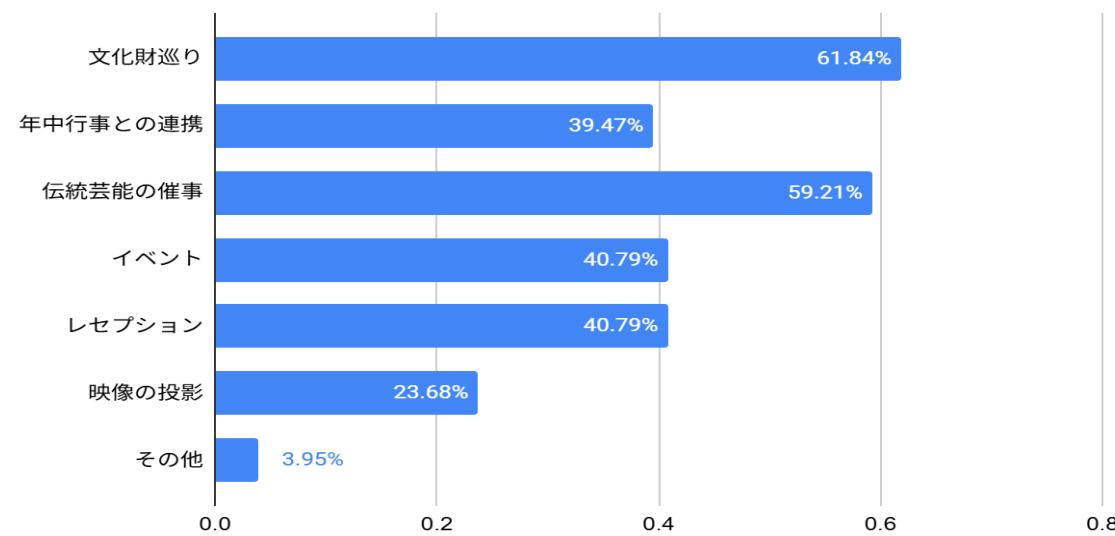
4. 江戸の歴史や文化のお知りになりたい情報を2つ以上選択して下さい。

5. 参加したいセミナーやイベント等を2つ以上選択して下さい。



会報誌 21号本誌

7. 一本丸御殿の活用方法として良いものを2つ以上選択して下さい



参考・文化財巡り…本丸御殿内部および文化財巡り

- ・年中行事との連携…天下祭、山王祭、三社祭、神社仏閣等の年中行事との連携
- ・伝統芸能の催事…能や歌舞伎、茶道、香道や華道等の伝統芸能、民俗芸能の催事
- ・イベント…現代音楽、クラシックコンサート・演奏やスポーツイベント
- ・レセプション…国際会議や学会などレセプション
- ・映像の投影…プロジェクションマッピング（映像の投影）テレビ映画の撮影

本丸御殿の（おもて・なか奥・大奥などその他）

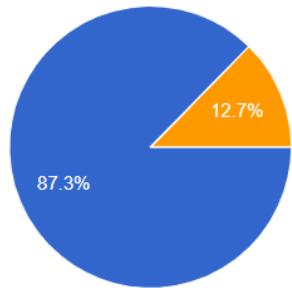


江戸城内で上は將軍、正室、側室、大名から下は大奥の女中に至るまで様々な人々が身分秩序・役職のもとでどのように儀礼、政治、生活を行い、役割を担っていたのか装束や蒔絵の施された豪華な駕籠など調度類なども完全に復元して何らかの方法（人形、アンドロイド）でそれらの所作を展覧することにより御殿の精緻な建築・美術工芸のみならず江戸時代の上層階級の暮らしの一断面であれ歴史を感じをもって学ぶ場所を国内外人々に提供できると思う。

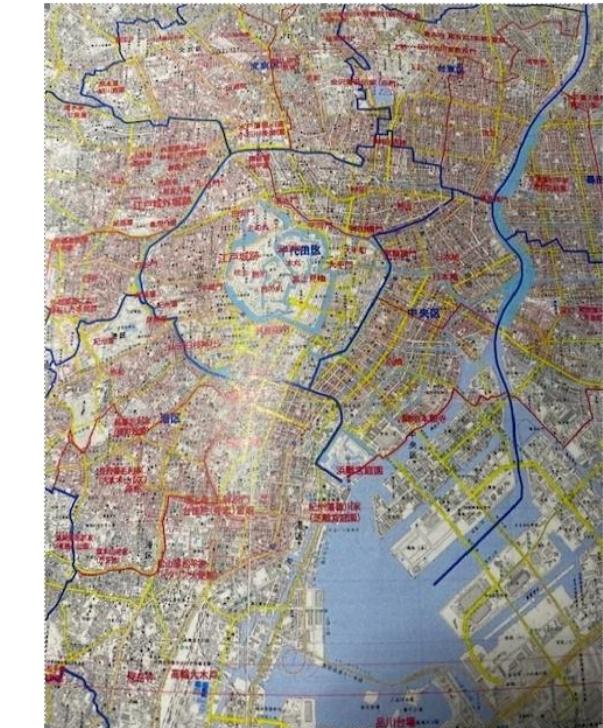
*世界平和文化交流センター及びボランティア活動については次号の中で掲載します

6. 世界遺産登録を目指す上で「江戸城全体整備計画」は必須要件です

(1) 現存する歴史的建築物等の「保全」（修理・整備・管理）について

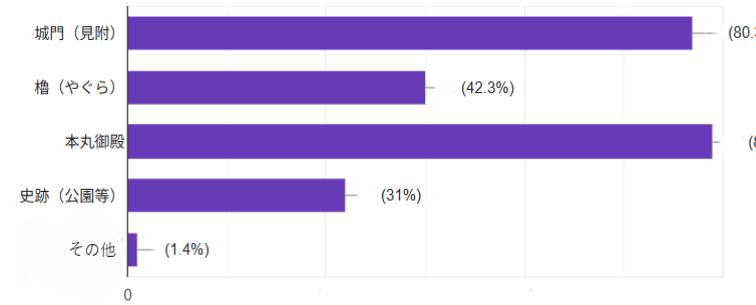


江戸城・城下町の歴史文化遺産分布



(2) 失われた建造物の「復元」

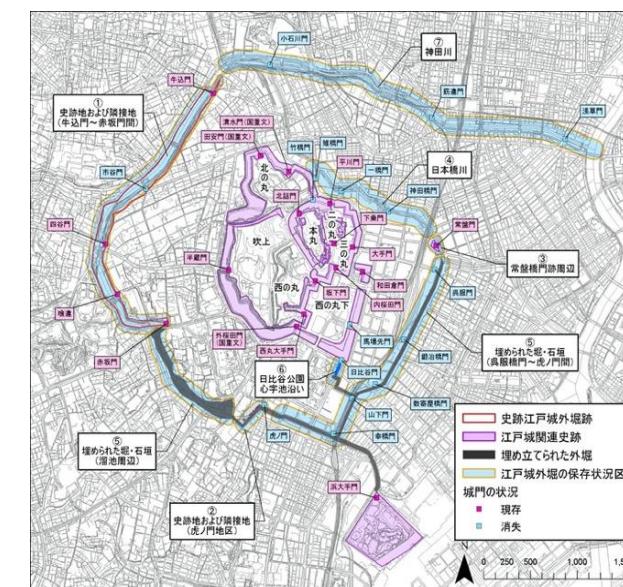
2つ以上選択して下さい。



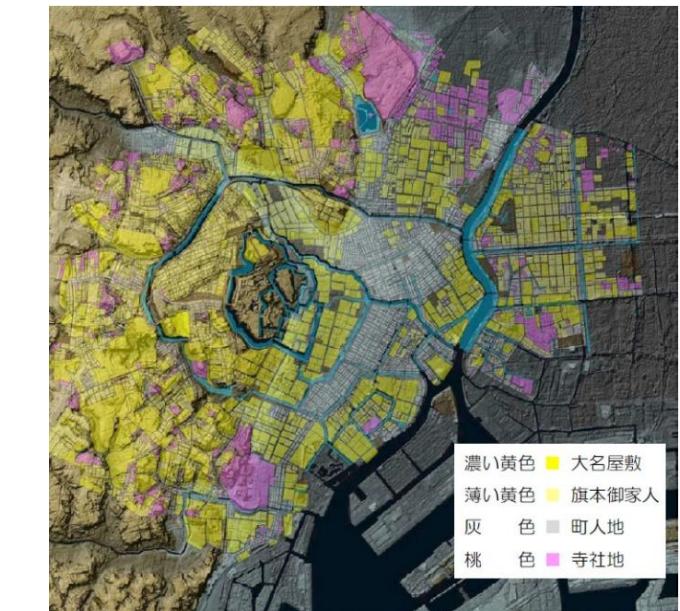
現存する歴史的建造物—建築物・石垣・濠等の遺構—の保全は、9割近くが優先課題

と評価しています。これまで、復元江戸城本丸御殿や威容を誇る城門（見附）の保全（復元を含む）を求める声は多く、現存する石垣やお濠、史跡等、最強の要塞であった江戸城外郭・史跡外濠との一体性の意義を求めていると考えられます。まさに、巨大城郭都市・総構えとして江戸城再現を彷彿とさせるのではないでしょうか。江戸城跡の歴史的建造物群の総体の保全、即ち、一江戸城全体整備計画一は、必須条件であると考えます。

江戸の地形と町割り

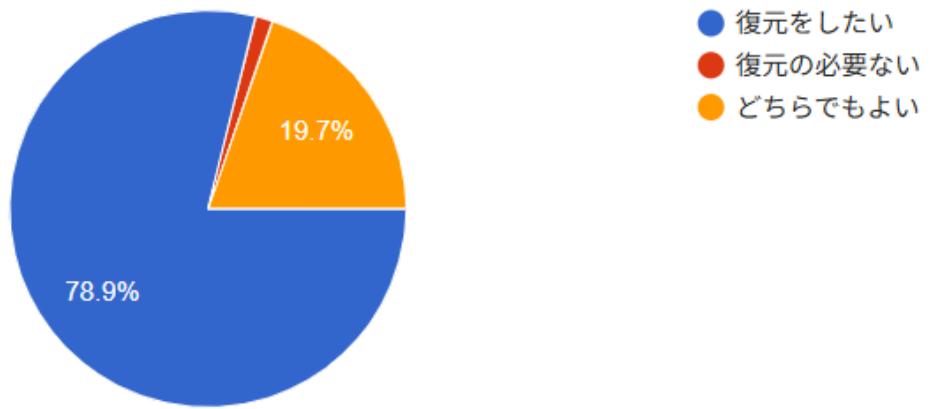


江戸の地形と町割り



6. (3) 一江戸城本丸御殿の「復元」について

一江戸城全体整備計画策定に向けた学術調査研究では、特に、江戸城本丸御殿の「メインの箇所」の復元検討を強く、要望していきます

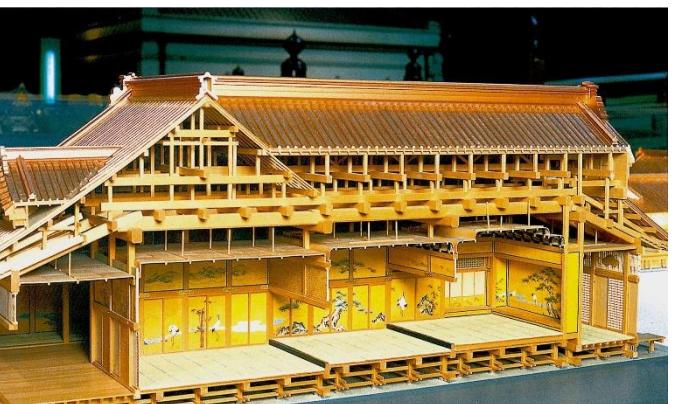


本丸御殿の発掘調査により御殿の歴史的変遷や遺物等確認できるかもしれません。膨大な数残されている御殿の図面と照合するうえでも発掘調査は欠かせないと思います。また、建築図面に関しては、万延度再建時ものがほぼ完全に揃っており、障壁画・天井画に関しては、狩野晴川院による弘化度再建時の伺下絵が残されていて復元資料となります。

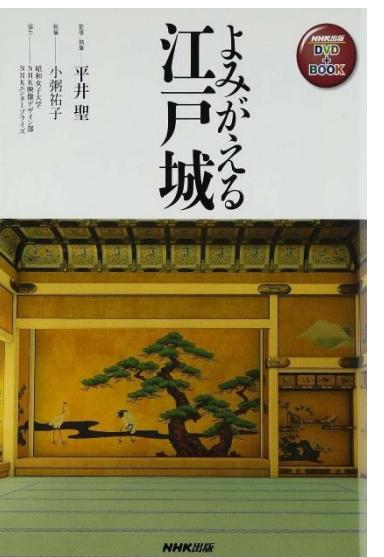
:是非、江戸城は復元していただきたいです。復元する大義は感じません。

:デジタルツインの中に復元するなどの取り組みがあれば楽しそう。

:自然景観も守り本丸御殿再建により今の景観を失いたくない。



「江戸東京博物館所蔵」江戸城本丸大広間の断面



監修・執筆 平井聖 小粥裕子

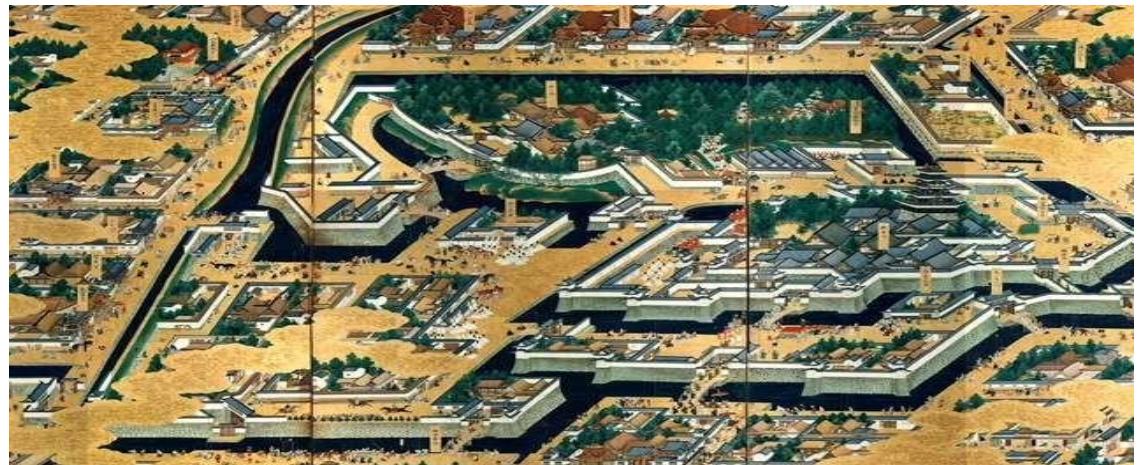
「江戸東京博物館所蔵」江戸城本丸松の廊下

6. (3) 一江戸城本丸御殿の復元は合法的に可能

江戸五口から放射線状に全国津々浦々と繋がる旧街道は現在の道に繋がっています。その始点であり中心にあるのが江戸城本丸御殿です。政治と文化の中心であり日本の城の中の城、これなくして日本の城、江戸時代は語れないのではないでしょうか。現存する資料「万延度の江戸城本丸御殿」は、江戸時代の大工文書の中の白眉といえるものであります。世界遺産登録が求める正真正銘—真実性、完全性—を備えているといわれています。

1987年、国の重要文化財に指定されています。(万延元年 1860年・東京都立図書館の甲良家文書)

放映されたNHKスペシャルの中で、江戸城第一人者である平井聖東京工業大学名誉教授は「本丸御殿は直ぐに復元できますよ」と明言されています。皇居東御苑での復元は、合法的に可能です。1860年に新築された「万延度本丸御殿」を大工達が残した図面を6年の歳月をかけて読み解いて、現在通常使われている形式の建築図面に置き換える作業に携わりました。襖絵から欄間に飾りに至るまで御殿内の意匠デザインは時代の翠を集め莊厳な美しさに甦る、といわれています。それに基づきCG復元で作成されたのが「よみがえる江戸城」NHK出版です。



江戸城「江戸図屏風」国立歴史民俗博物館所蔵（小澤弘・丸山伸彦編「図説江戸図屏風をよむ」より転載）

一復元本丸御殿の活用範囲は広い

学術会議では、文化財の保存（使用不可）と活用（使用可）の箇所を区分することが想定されます。本丸御殿（東御苑）は広大であり、活用範囲は非常に多いと考えられます。本丸御殿は御殿建築の最高水準にある一方、内部の様々な意匠も鑑賞したい等、これまでにも、文化財巡りが人気です。加えて、能楽や歌舞伎、茶道、香道や華道、武道等の伝統芸能及びその担い手やその主体の活動も魅力です。

「復元江戸城本丸御殿」で催されるからこそ、活き活きとした臨場感が偲ばれます。江戸城内に入ることが許されたお神輿・天下祭や山王祭は多くの人々で活況を極め、農民も鑑賞できた能楽とその舞台、また、神社仏閣等の四季折々の年中行事との連携は、時代の生活、歴史や思想に静かに浸る時をもたらすでしょう。

こうした有形無形の文化財のみならず広く一般民衆に広まった民俗芸能や工芸の発掘も逃すことはできないでしょう。京都二条城では現代音楽の催事がおこなわれています。クラシックコンサート・演奏やスポーツイベントなどアイデアに事欠きません。国際会議や学会などレセプションは誘致にとっても、魅力的なセールスポイントです。